

## 第6学年 国語

### 第6学年の学習到達目標

- (1) 目的や意図に応じ、考えた事や伝えたい事などを的確に話すことや相手の意図をつかみながら聞くことができるようにするとともに、計画的に話し合おうとする。
- (2) 目的や意図に応じ、考えた事などを筋道を立てて文章に書くことができるようにするとともに、効果的に表現しようとする。
- (3) 目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする。

### 第6学年の主な学習内容

学期	単元名	学習のねらい	学習内容
前期	一 表現の良さを味わいながら声に出して読もう 風切るつばさ 野のまつり 五月/雪	心情や情景を想像し、表現を味わいながら、朗読の工夫をする。	叙述をもとに、作品に描かれた心情や情景を読み取る。[強調した読み方]
	漢字辞典を利用しよう/言葉の広場	漢字辞典の仕組みと三種類の索引について理解し、効率的に利用できるようにする。	漢字辞典の利用(部首索引・総画索引・音訓索引)
	二 自分の意見を伝えるスピーチをしよう 伝え合おう、わたしの意見 依頼の手紙を書こう	自分の考えや意図が伝わる工夫をして話したり、話し手の意図を考えながら聞いたりする。	自分の意見が正しく伝わるように、話し方を工夫してスピーチをする。
	ことわざや昔の言い方に関心を持とう/言葉の広場	ことわざや昔の言い方に関心を持ち、表現の効果を知る。	ことわざ、文語の特徴
	三 書かれていることがらの中心をおさえながら読もう イースター島にはなぜ森林がないのか	文章の構成を考えて、書かれている内容を正しく読み取る。	文章構成に注意して、内容を読み取る。
	気持ちのよい話し方をしよう	相手の状況や伝える内容に気を配り、その場に応じた言葉遣いを考えて会話をする。	気持ちよく話すための言葉遣いを考える。
	日本の文字に関心を持とう/言葉の広場	平仮名と片仮名の由来と特色を理解し、日本語の表記について知る。	平仮名と片仮名の成り立ち、日本語の表記
	四 強く語りかけてきたことを考えながら読もう ヒロシマのうた	時間の流れに注意して物語の流れをとらえ、最も強く語りかけてきたことを自分の言葉でまとめる。	物語の流れをとらえながら読み、自分に最も強く語りかけてきたことをまとめる。 テーマに沿った本を選んで読む。[読書]
	しょうかい文を書こう	目的や意図に応じて文章の構成を考えながら、簡単に書いたり詳しく書いたりする。	目的や意図に応じて、詳述したり略述したりする。
	五 役割に応じた話し方をくふうして ニュース番組を作ろう	ニュース番組の構成を考え、役割に応じた話し方を工夫して話したり、話し手の工夫に注意しながら聞いたりする。	身近な事柄を取り上げ、構成や発表方法を工夫してニュース番組を作って伝える。
一 作家と作品をかかわらせて読もう 宮沢賢治	宮沢賢治の生涯について読み取るとともに、作家と作品のかかわりについて自分の考えをまとめて紹介し合う。	人物の生涯について読み取り、その理想や生き方について考える。賢治や他の作家の作品を呼んで紹介する。[読書]	
感動をリズムにのせて	言葉のリズムを生かし、表現を工夫して俳句を作る。	言葉のリズムを生かして俳句を作る。	
二 いろいろな言葉について調べよう 言葉の意味を追って	文章の構成に注意して書かれていることを読み取り、言葉への関心を深める。	文章の構成に注意して読み、辞典作りについて述べられていることを読み取る。	
言葉の由来に関心を持とう/言葉の広場	和語・漢語・外来語の由来を理解し、日本語についての関心を深める。	和語・漢語・外来語	

後期	三 構成をくふうして書こう 「わたしの意見」を書こう	日ごろの生活の言葉を見直して問題点を見つけ、書く事柄を整理し効果的な組み立てで文章を書く。	効果的な組み立てを工夫して意見文を書く。
	文末の言い方に目を向けよう/言葉の広場	文末表現には話し手の判断や物事のとりえ方が表れていることを理解する。	文末表現
	四 わたしたちの「未来」について討論しよう 百年前の未来予測	文章の内容から筆者の考えを読み取り、「未来」についての自分の考えを明確にする。	未来について考えたことをパネルディスカッションで討論する。
	文の組み立てに目を向けよう/言葉の広場	文の骨組みを作る言葉と修飾する言葉を知り、文の組み立てについて理解する。	格助詞、連用修飾、連体修飾
	五 人物の生き方を考えよう 海のいのち	人物の生き方を考えながら物語を読み、最も強く語りかけてきたことを紹介し合う。	人物の生き方について考えながら読み、物語が自分に最も強く語りかけてきたことをとらえる。同じ作者の作品を読む。[読書]
	熟語の構成について考えよう/言葉の広場	三字以上の熟語の構成を理解する。	三字以上の熟語の構成
	六 さまざまな表現方法を生かして 「未来へのメッセージ」を書こう	今までに学習した表現方法を生かして思い出や将来への願いをまとめることで、主体的に学習する力を身につける。	小学校生活の思い出や将来への願いを書く。

### 評価の観点・方法

<p>(1) 評価の観点 それぞれ学習を進める中や学習後に評価します。</p> <p>【国語への関心・意欲・態度】 国語に対する関心もち、計画的に話し合ったり、適切に書いたり、幅広く読書したりしようとしている。</p> <p>【話す・聞く能力】 目的や意図に感じ、考えた事や伝えたいことなどを的確に話したり、相手の意図を考えながら聞いたりしている。</p> <p>【書く能力】 目的や意図に感じ、考えた事などを筋道を立てて文章を書いている。</p> <p>【読む能力】 目的に感じ、内容や要旨を把握しながら読む。</p> <p>【言語についての知識・理解・技能】 音声、文字、語句、分や文章、言葉遣いなどの国語についての基礎的な事項について正確に理解している。</p>	<p>(2) 評価の方法 知識や理解・技能だけでなく、児童の学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力の重視して評価します。特に、6年生では、学校や社会において問題だと感じた事や、解決するために考えたことの中から、伝えたいと思う話題を探し、それについて話したり聞いたりする活動を重視していきます。</p> <p>ペーパーテストだけでなく、日常の学習の様子、発言、ノート、作文、自己評価、相互評価、毎時間の伸び、疑問、願いなど様々な面から多面的に評価します。</p> <p>学習の進行中に現れる児童の思いや願い、疑問を常にとらえ、次の指導に生かします。</p> <p>自分自身の学習の仕方や理解の程度など、個の内面の変容を把握できるよう児童が自己評価したものを参考にします。</p>
--	---

### 特色ある学習方法

<p>(1) 基礎学力の定着・・・日常生活に必要な、話す・聞く、書く、読むなどの基礎的な内容を繰り返し学習していきます。</p> <p>(2) 主体的な学習活動・・・主体的に学習に取り組もうとする態度を育てるために、教材文から興味・関心をもった事柄や課題の情報を収集・整理し、ミニ伝記や情報誌、文集などにまとめるという活動を行います。</p> <p>(3) 「伝え合う力」の育成・・・朗読や新聞、感想文など、自分の表現したい方法を選択し、発表会を開きます。そして、自分の意図や考え、思いを聞き手に伝える「的確に話す」能力と「相手の意図をつかみながら聞く」能力を育て、言葉で伝え合う能力を高めていきます。</p>
---

### 使用教材等

<p>教科書 「新しい国語 6年」(東京書籍)、漢字ドリル 学校図書館や情報機器類の活用 課題決定や必要な情報の収集・整理、まとめ、発表などの能力を高めるために、また、楽しく活発なまとめや発表活動が展開できるように、学校図書館や情報機器類を積極的に活用します。そして、目的に応じて情報を広げたり、質を高めたりしていきます。</p>
---

### 留意事項

<p>(1) ノートの種類 15行のノートを使います。漢字練習帳は、150字帳を使います。</p> <p>(2) 小学校での読書習慣は、生涯学習の基礎となると言われます。家族と一緒に読書を楽しみ、1冊の本について意見交流する時間をもってみるのはどうでしょう。</p> <p>(3) いろいろな言葉を身に付けていくために、日常生活においても辞書を活用して調べる習慣の定着化が図れるよう、また、日常生活の中でも積極的に辞書を利用できるよう、必要な時にはいつでも辞書が手元にあり使える環境にしてみたいかがでしょう。</p>
--